

総説

10周年記念シンポジウム
岡山県自然保護センターの湿生植物園
湿原移植の成果と評価

岡山県自然保護センター編

10TH ANNIVERSARY SYMPOSIUM
THE PRESENT STATE AND EVALUATION OF THE ARTIFICIAL MARSH LAND GARDEN
IN THE OKAYAMA PREFECTURAL NATURE CONSERVATION CENTER

(ed.) OKAYAMA PREFECTURAL NATURE CONSERVATION CENTER

はじめに

岡山県自然保護センターでは、開設10周年を記念して「湿原移植の成果と評価」と題した公開シンポジウムを開催した。この総説はこの時の講演記録を元に作成したものである。

開催趣旨

岡山県自然保護センターでは、10年前に湿原を丸ごと移植した。湿原植生の全くなかった場所につくられた湿原で、10年間維持されたものとしては全国でも他に例がない。

今回のシンポジウムでは、人工湿原をつくるに至った経緯や湿原の移植方法、また完成後の管理と植生変遷のほか、淡水藻類、貝類およびトンボ類など湿原にすむ動植物から見た人工湿原の評価など、専門家からの話題提供を交えて、人工湿原の10年間の成果について考える機会としたい。

湿原植生の移植によって湿原生態系が自然状態でどの程度維持されたかの成果を10年間の結果から判断することは難しいかもしれない。しかし、一つの区切り目として、皆様に報告したい。

湿原の経緯

移植時には、たんぼだった場所で湿原の植物が生育できるように基盤を整備し、移植元の湿原から表土をはぎ取って植え付けるなど、大がかりな作業を行った。これらの作業には多くの方々の協

力と自然の湿原から学ぶべきことが必要であった。完成後には、水質や水量を適正に保つこと、次々と生えてくる雑草を除去するなど様々な管理上の問題が起きた。しかし、水の管理では井戸水が得られるようになってからは順調になり、雑草の除去ではボランティアさんを育てることによって協力体制が整った。こうした経緯を経て、また多くの方々の協力によって、人工湿原が良好な状態に保たれるようになった。

プログラム

- | |
|--|
| 12:00~13:00 現地視察 |
| 1. 13:00~13:20
湿原を移植するに至った背景と移植技術
波田善夫 (岡山理科大学教授) |
| 2. 13:20~13:40
移植後の湿原管理と植生変遷
西本 孝 (岡山県自然保護センター主任研究員) |
| 3. 13:40~14:00
岡山県自然保護センターの淡水藻類相について
大谷修司 (鳥根大学助教授) |
| 4. 14:00~14:20
人工湿原に定着しえた絶滅危惧貝類
福田 宏 (岡山大学助教授) |
| 5. 14:20~14:40
トンボ類から見た人工湿原の評価
森 生枝 (岡山県自然保護センター研究員) |
| 14:40~15:00 総合討論 |

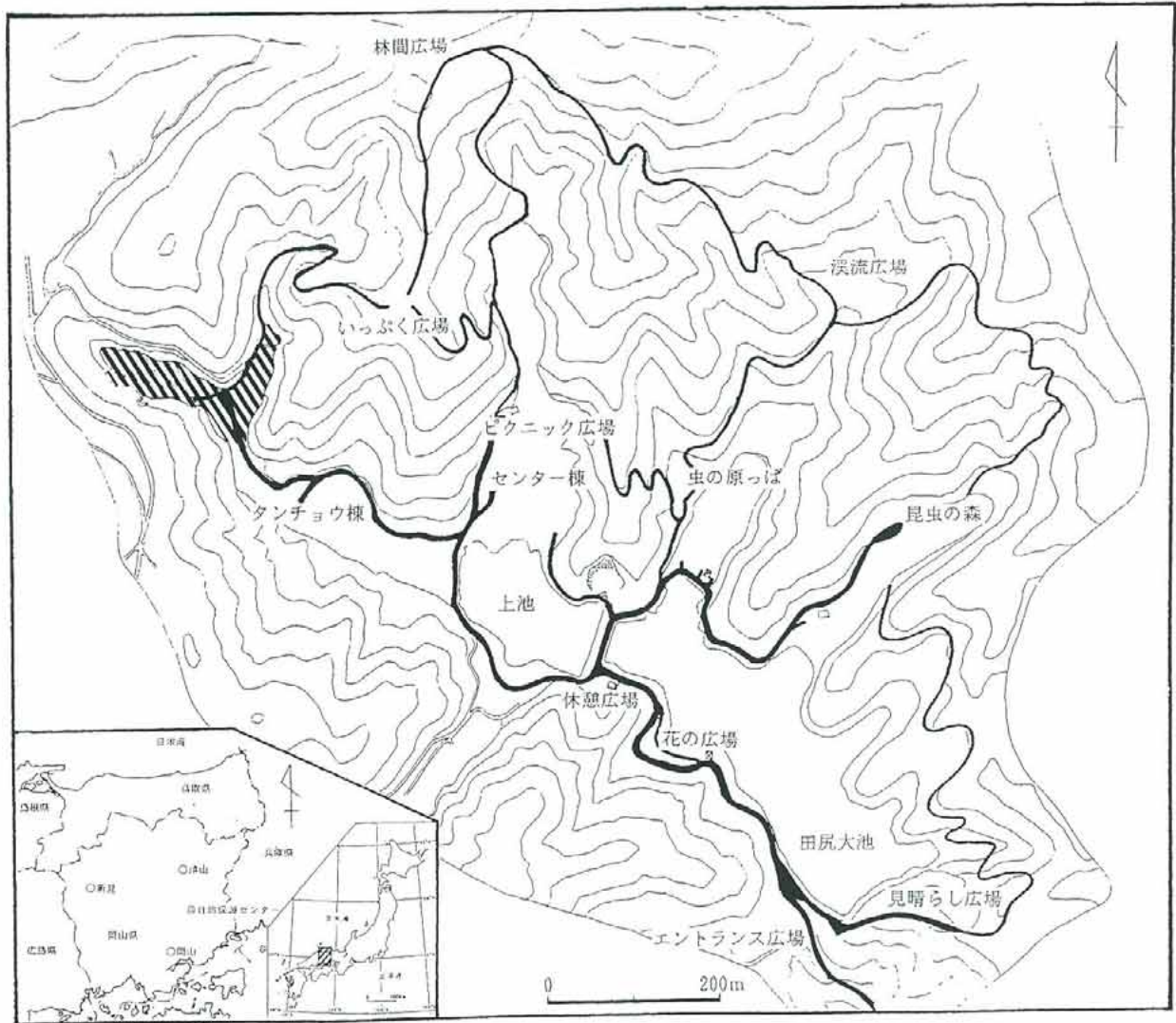


図1. 岡山県自然保護センターの湿生植物園の位置.

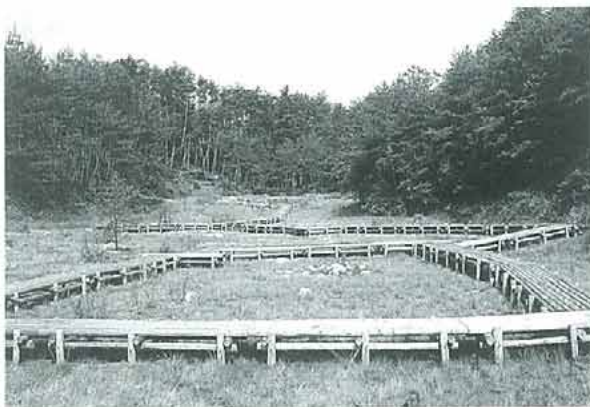


写真1. 湿生植物園(西の谷)の外観(1992. 6. 30).



写真2. 湿生植物園(西の谷)の外観(2000. 6. 16).

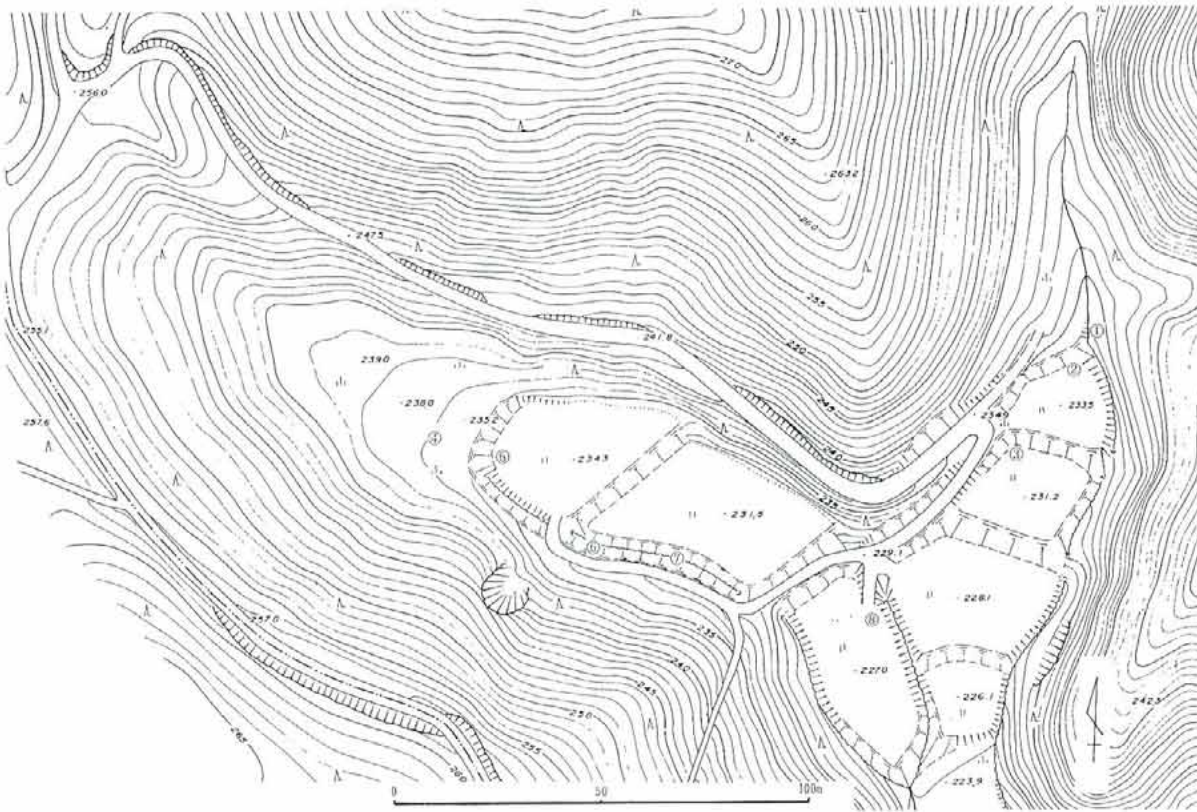


図2. 湿生植物園の原地形. 圃場整備がなされた直後の水田であった.



図3. 造成後の地形と各部分の名称. 網掛け部分は常時水が流れている部分.